

発行日 令和7年9月25日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード

「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます

パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 基本 本 まもる・よせつけない・つかまえる 3つの基本対策を総合的に！
- ◆ 刈払いの実施を 刈払い等によりツキノワグマにとって快適な環境を無くしましょう
- ◆ 食べさせない 食べ物を排除するとともに、電気柵を確実に設置運用しましょう
- ◆ 電気柵点検 地面と平行に隙間なく、正しい高さで設置されているか点検を
- ◆ 恒久電気柵 支柱・ワイヤーとも一定の強度があるので活用を検討しましょう

1 基本

県では、令和7年7月4日にツキノワグマによる死亡事故が発生したことを踏まえ、出沒に対する注意喚起を強化し更なる被害の防止を図るため、岩手県全域に「ツキノワグマの出沒に関する警報」を発表しています。また、林野庁の調査によると、今秋のブナ結実の豊凶は、本県を含めた東北5県で大凶作と推測されています。

ツキノワグマは今後、冬眠のために餌を大量に食べる時期を迎え、本来、ブナやクルミ、ドングリなどを求めて活発に活動し、皮下脂肪を蓄えて体力をつける時期となります。そのため、そうしたエサが確保できない、または、人間社会の近くで生活したほうが、高カロリーのエサが確保しやすいと判断した場合には、私たちの生活や農民生産の現場に出沒することも考えられます。

野生獣による農作物被害対策の基本は、「個体群管理＝つかまえる」「侵入防止対策＝まもる」「生息環境管理＝よせつけない」の3つの基本的対策を、地域やほ場で総合的に継続実施することです。

捕獲・駆除だけでは、次の個体群がやってきて、また被害が発生します。捕獲することは基本対策として重要ですが（特に加害獣）、それだけでは被害を無くすことはできません。3つの基本対策を総合的に実施することが最も重要です。

2 刈払いの実施を！

●ポイント 草刈等で近づけさせない！

- ・ほ場や集落、河川付近の茂みや耕作放棄地は、ツキノワグマをはじめとした野生獣の格好の潜み場、休憩場となります。
- ・「草を刈る」ことは、見通しを良くすることになり、ツキノワグマの姿を見せると同時に、休憩場所を無くすことになります。
- ・また、草刈りは最大の防御策である「電気柵」の効果をあげることにともながり、効果的な対策です。
- ・車庫や倉庫、物置、廃屋なども点検し、住处や冬眠場所になっていないか確認します。

3 食べさせない対策を！

●ポイント 「エサ場」をなくし、かつ、誘因もしないように！

- ・畑の農作物はもちろん、未出荷の収穫済み農作物や、収穫残さ、捨てサイレージ（牛の飼料）、収穫しない果実、生ゴミ（コンポスト等を含みます）、家庭菜園等、身のまわりの思わぬものがツキノワグマを引き寄せるエサとなります（写真1）。

- ・農作物は植えると同時に、食べさせない対策を実施します。小さな面積であっても、電気柵の設置を検討し、ツキノワグマにそこがエサ場だと認識されないよう、しっかりと防御します。
- ・ツキノワグマを引き寄せないよう、コメや生ごみ（コンポストを含む）なども、極力屋外で保存しないことや、小規模のものは密閉する等「匂いを出さない」対策を行いつつ、倉庫等の施錠と戸締りを確実に実施するなど「侵入されない対策」を実行します。



写真1 人間にはゴミでも野生獣には御馳走です

- ・畜舎は、家畜の（配合）飼料はそのままツキノワグマのエサになってしまうため、畜舎周りへの電気柵設置を検討します。舗装されている場合は、電気を通しづらく電気柵の効果が低下することから、その外周への設置を検討します。

4 効果的な電気柵の設置と点検を

電気柵は、ツキノワグマ等野生動物に、痛みを与えて防御できる唯一の方策です。

設置やその後の運用に際しては、以下の点に注意しましょう。

- ・ワイヤーの高さは正しく（地面から20,40,70cm）、ピンと張ってください。ポリワイヤーを利用している場合には、「簡易緊張具」の利用が便利です。また、その際、ワイヤーのスタート・ゴール以外は途中で結ばないでくと、クマの強行突破の際も他の支柱を引っ張らないため、破損が少なくなります（写真2）。
- ・地面が盛り上がったところや、くぼ地には支柱を追加し、ワイヤーの高さが地面から均一になるよう調整して、漏電と隙間からの侵入を防ぎます。
- ・パワーユニットは、設置距離に対応したジュール数のものを選択し、アース棒もパワーユニットに対応した本数と深さで設置します。電圧は5,000V以上、稼働後でワイヤーが草に触れている状態であっても4,000V以上の電圧が流れているかを確認します。
- ・適切に電気柵を設置していても、なお、侵入が見られる場合、ツキノワグマは最下段と地面の間や、ワイヤー間をくぐり抜けていることが多いため、ワイヤーを下げることを検討してください。



写真2 ピンと張られたポリワイヤーによる電気柵



写真3 クマ対策の簡易電気柵とトリップ柵

- ・また、トリップ柵と呼ぶ、本柵の外側 30cm の位置に、1 段だけワイヤーを追加設置する方法もあります（高さ 20cm、支柱は 1 本飛ばしでも大丈夫です）。クマはこのトリップ柵に対し、またぐことはほとんどなく、侵入防止効果を高めることになります。

5 恒久電気柵の利用も検討と点検を

- ・ポリワイヤーを利用した「簡易電気柵」は、設置が容易な反面、毎年設置と撤収を繰り返す必要があります。また、物理的にも強いとは言えません。また、毎年、設置を行う必要があります、稼働開始が遅れてしまう事例も少なくありません。
- ・一方、単管パイプと高張力鋼線（フェンシングワイヤー）を用いる「恒久電気柵」は物理的な強度もあり、そのワイヤーは通電性も良く、ツキノワグマ対策に適した電気柵であるともいえます。
- ・設置についての詳細は、令和 7 年 5 月 29 日及び 6 月 26 日発行の「農作物技術情報特別号 野生獣対策(1)及び(2)」を参照ください。
- ・なお、恒久電気柵は、支柱間隔も長く、地面とワイヤーの隙間が生じやすい、といった特徴もあります。定期的に点検を行い、地面とワイヤーの間に過度の隙間が生じている場合には、^{がいし} 碍子の位置を修正しワイヤーを下げるほか、全体的にワイヤーが高い場合には、適切な高さのワイヤーの追加設置、または、一部分だけポリワイヤーを追加する等の対応を行います。
- ・ツキノワグマは、繁茂した草等により見通しの悪くなった川沿いを移動している場合が多くありますので、河川と農地や集落の間に、バリケードのように恒久電気柵を設置することも効果的です（写真 4）。長距離設置に対応し、毎年の設置撤収が不要な恒久電気柵は、こうした場合にも適しています。



写真 4 河川と農地の間に設置された恒久電気柵

6 おわりに

ツキノワグマを含め野生獣の対策としては、3つの基本対策を同時に実施する総合対策の実行が重要です。また、ツキノワグマを対象とした場合の防御策としては「電気柵」しかないことから、電気柵の適正な運用を検討してください。

なお、設置済み電気柵の点検や、次年度にむけ、集落単位やほ場における電気柵の設置を計画している場合などの野生獣被害対策についても、各農業改良普及センターでは支援を行っていますので、適宜ご相談ください。

次号は10月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**忘れずに！点検・確認・安全管理
無事故で終える収穫作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。